

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201042		
法人名	有限会社 かけはし		
事業所名	グループホームかけはし		
所在地	福岡県福岡市西区愛宕南2丁目13-23		
自己評価作成日	H28年2月19日	評価結果確定日	平成28年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4071201042-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	H28年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中はできるだけ皆とリビングで過ごしてもらい、入居者同士、同じテレビを観てもらい、会話ができるようにしている。また、外出したい人はコンビニ等に一緒に出かけ、煙草などの嗜好品も要望があれば購入し、提供している。個々のニーズに添うような対応を心がけている。職員と入居者の距離が感じられないように、毎朝、社長自ら挨拶を行い、様子を観ている。職員も同じように声をかけ、入居者もその日のスケジュールについて尋ねたり、遠慮なく声を掛けてくれるような関係がある。隔週、医師の往診を受け、毎週、外部から看護師が訪問を行い、健康管理をしているため、医療上の相談もできて安心感がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が考えた理念の中の一つ、「自由に選択して、自由に生きる」をもとに、外国人の職員と共に入居者への支援がされている。家庭的な雰囲気や大事にしており、このグループホームでのんびりと暮らしていけるよう、入居者、家族の意向をよく聞きとって支援している。元々この地で営んでいた産婦人科病院であったので地域に馴染んでいる。同じビル上階に住む代表者は毎朝、入居者、職員に声をかけて体調を伺い、礼節を重んじながらも、垣根がない接し方をしている。安心した医療を受けられるように、以前からの訪問看護事業所の、週1回訪問看護師に加えて、4月から往診専門医のクリニックと契約する予定であり入居者の体調管理に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスの時は全員で理念を唱和し、理念を常に念頭に置き、特に「自由と感謝」を忘れずに実践している	理念に基づいて、入居者もスタッフも日常的に何でも言い合えるようにしている。特に職員には「感謝: サービスさせてもらっている」という事を常に考えながら働くようにと、代表者自らが折にふれ伝えている。職員はゆったりのびのびと入居者に接していて、言葉使いがとても丁寧である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の要望を聞きながら、コンビニや喫茶等、近所への外出を支援し交流を図っている	前職の産婦人科時代からの地域とのつながりがあり、隣接マンションの役員や民生委員が様子を見に来てくれている。地域の夏祭りにも呼んでもらい入居者と参加できた。また、外出する入居者がよく利用するコンビニ店では、店員さんとも顔なじみになり、あたたかく見守ってもらえている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際にここの入居者と接してもらったり、状況を話し、認知症への理解を持ってもらえるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	居宅介護支援事業所の方の参加も新たにお願ひし、会議を通して情報交換を行い、話す事で得る事が多く、入居者にも反映するように考えている	民生委員・校区や隣接マンションの防災担当者がほぼ毎回参加してくれており、事業所の報告や悩みも率直に報告している。地域や地域包括支援センターからも、地域の取組や問題点などを話してもらっている。開設当時から入居している方が、何の不満もありませんと発言してくれた。提携している訪問看護師にも参加を呼びかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いきいきセンターの方がみえた時に地域の現状を聞き、こちらの実情を伝え、助言や協力を仰いでいる	運営推進会議への行政担当者の参加は困難だが必要時は連絡している。地域包括支援センター職員からは、最近高齢者詐欺が多発している事への注意や助言などももらっている。また、ケースワーカーの訪問もあるので、その際に情報共有ができ連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は絶対ダメと皆が周知している。そういう事で困る事は相談し、記録を残した上で、考えると言う事を理解している	「自由に生きる…」という理念のもと、身体拘束はしていない。運営する上で最優先事項であると考えており、職員も理解している。離設傾向の入居者がいるが、拘束しないように、全職員で話し合い、いろいろと工夫してケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対ダメと皆が周知している。気になる事は皆で話し合い、事前にそういう事にならないように気を付けている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が成年後見制度を利用している事もあり、権利擁護を理解し大事にしている。会議の中で、社協の方にも説明をお願いした	制度を利用している入居者がいるので、支援者が訪問した時に、職員もきちんと対応できている。また、理解を深めるために社協の方に、わかりやすく話しをしてもらった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をした上で、契約書を持ち帰ってもらい、ゆっくり読んでもらってから質問等を受け付けている。その後、納得の上、契約書を交わしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱は常に設置しているが、なかなか記入してくれる方がおられないため、管理者、職員全員で、いつも意見を聞くようにし、真摯に受け止めている	相談箱への意見がほとんど無いため、代表者自らが『苦情は宝』と、率先して現場に出向き、入居者や家族に話しかけている。家族もよく話してくれるので、時間もしっかりとるように努力している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内線、携帯等で常に代表者は職員からの意見を聞き、毎月の会議の席でもその時間を設け、話し合いを持っている	ケアカンファレンスの後を職員の時間にして意見交換ができるようにしている。昼休みの時間を、入居者の状況に対応するために変更したいと意見が出たので、みんなで話し合っって変更したことがある。出た意見を全員で聞き、とりあえず実践してから再度考えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2度シフトを決める際に、従業員個々の休日希望を受け入れ、体調による配慮も行っている。就業しやすい環境を作っている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	採用選考に当たっては、国籍、性別、年齢等まったく関係なく行っている。その方の人格、性格など人柄、やる気を重視している。又、勤務時間帯の希望を考慮し、無理なく働けるように考えている	国籍、性別、年齢、身体的ハンディキャップなどに関係なく、事業所の理念を尊重して働ける人を採用している。現在外国出身者が5人働いているが、地域柄明るい性格の人が多く、現場の雰囲気がとても良い。また、文化の違いも業務に活かしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	毎月の会議の際に、人権重視の話が聞かれ、検討事項の中でも、入居者への接し方の大切な事なので、注意しながら介護を行うようにとの意識を持ってもらっている	毎月の会議では必ず、コミュニケーションの取り方や介護方法について、学習と話し合いを行っている。ケアの現場で問題があったら、直接本人に、分かりやすく説明して指導している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスの全員参加を勧め、内外の研修が受けられる様に情報提供や、経済的な援助も行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交流会での講習に参加し、勉強をさせてもらった。その内部発表ができ、皆にも理解してもらえた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個室でゆっくりと話を聴き、その後も様子を親ながら都度、話を引き出すように心がけている。職員も見守り、気づきの意見交換を行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がお見えになった時は相手方の時間の許す限り話を引き出し、メモを取らせてもらい、こちらからの話も聞いてもらっている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話を重ねることで、話のキャッチボールを目指している。色んな事を知る事で必要な事を探ることが出来、できることを説明している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している事を理解してもらい、頼めることはお願いし、出来ない事は事情を説明し、又、待ってもらう様なこともある		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	無理のない程度に必要な物をお願いしたり、体調が悪い時には連絡し、出来る時は受診をお願いして一緒に本人を支えるようにしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば、出かけた場所にお連れしている。友達などもいつでも気兼ねなく面会できるように対応している	入居前に住んでいた所に行ってみたい、あそこの理容室に行きたいなど…の要望が叶えられるように業務を調整して出かけている。戻ってきたときの表情がとても良いので、送り出した側も元気をもらえる。友達の訪問があったときには、職員も歓待するようにして、また来てもらえるように声かけしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の良い関係を築くために、注意する事もあり、できるだけ気分を害しないように、都度、気を使いながら対応している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後、落ち着いて生活して居られるかを尋ねたりしている。家族から電話や出向いて来られる事もあり、その際は相談に乗っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少なくとも半年に1回は意向を尋ねているが、特に言われたい事が多いが、察して言葉を投げかけている。職員で様子を汲み取り、話し合いをしている	入居者が食事場所の変更を希望したり、茶碗拭きの手伝いを希望したり、その時に応じて日々の思いをくみ取り対応している。理念の一つ「自由に選択し、自由に生きる」に取り組んで、本人本位の支援をするために、まずやってみる姿勢が伺えた。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の聴き取りだけでなく、以前関係のあった施設や、支援していた方に情報提供をお願いしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、同じ時間に皆で健康体操を行い、生活の中でどういう状態か、変わらないか等様子観察をし、気になる点は記録に残している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には聞けるときに意見を求めて、個別のケアカンファレンスの際に照会し、本人も交えながらこれからの介護計画に活かせる様になっている	入居者個人ファイルには、日々の様子が細かく記入され、職員はどの入居者に対しても行動を把握している。家族からの意見を良く聞き、アセスメント・モニタリングを行い、入居者本位の介護計画が作られている。本人、家族、職員の三方向からの折衷案を出して一緒に考えている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のバイタル、排泄チェック表等のチェック、ケア記録を記入し、重要な事は介護日誌に改めて残し、申し送りも行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人のニーズに対応できる情報を、区役所等からの色々な情報を集めておき、その中から選び、紹介利用できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報誌、地域住民の話等を把握しておき、有効な事は発信し、利用するようにしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は希望により継続している。事業所でお願いしている医師が定期的に往診し、診てもらえるので健康管理もできている。また、急変にも対応してくれる	先日、元気に暮らしていた90代入居者が肺炎の症状で入院したが、提携医との連携で早期対応ができ、重篤にならずに退院できた。今年4月からは、往診専門医の訪問診療へと変更になる。訪問看護師との連携で、入居者家族に安心してもらえるような、健康管理体制作りの方針を持っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所でお願いしている訪問看護師が毎週診てくれ、健康管理をしている。また、必要に応じいつでも相談、支援を受ける事ができる		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と一緒に、職員が対応できる事は対応している。病院に電話、また出向いたりしながら相談員と話し合い、その後の介護支援を考えている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも看取りに関する指針を理解してもらい、同意を得ている。その後も必要に応じ本人、家族、関係者と話をしている	昨年の外部評価調査後、目標達成計画に「看取りの指針」を作成している。介護の重度化が進んでいるため、家族、入居者の希望を普段から聞く体制作りを行っている。今後は対応できる職員のスキルを上げていくようにしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てなくていいように掲示したり、ファイルをすぐに見れるように準備している。内部研修も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え、年2回訓練を実施している。日中、夜間共に対応できるように想定している。近所の方にも参加を呼び掛けている	入居者共に、避難訓練を行っている。風水害時には、隣のマンションのオートロックを解除し避難できるような協力体制作りはできていない。この事業所が近隣の避難場所ともなっている。	備蓄品について、乾パン等の準備はされているが、高齢の入居者が食べにくい面もあるので、今後温かく柔らかい食事が提供できるように考え、準備されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を使うように、プライバシーは大事に心がけているが、出来てない時があり、職員同士で注意し合うようにしている	「入居者は人生の先輩」との思いで、言葉使いは特に気をつけて接している。外国人の職員もいるため、排泄介助の時には入居者の尊厳を傷つけないように、職員間でも注意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声を出してもらいやすい雰囲気づくりに努めている。自主性を重んじ、気持ちを汲み取るように気配りをしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リズムは作りながらも無理されないようにと考え、その方の意向を聞き出す姿勢をとっている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容はきちんとチェックしながら、任せながらも、その方に必要か、趣味に添うか等考えながら対応している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状態、その日の状態に応じ、形体を変え提供している。出来る方には準備や片づけを無理のない様をお願いしている	献立を決めユニットごとに職員が食事作りをしている。高齢者が好むメニューと味付けで、調査当日はうどん、野菜の煮物などだし汁を効かせ、外国人の職員が美味しく調理して提供していた。軟食、刻み食、ミキサー食に対応して、なるべく口から食べてもらうように支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日決まった時間に提供し、摂取量をチェックし、体重の増減にも注意を払っている。個人の希望を聞ける範囲で受け入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に声かけしお願いしている。また、できない方には口腔ケアの支援を行い、チェックしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、検討し、個人の能力を踏まえ、トイレ誘導、PTイレの使用等を行っている。オムツの使用に関しては話し合っている	日中は、リハビリパンツとパットの使用で声かけ誘導し自立支援を行っている。夜間にはポータブルトイレを使用する入居者もいる。入居者の尊厳を傷つけない声かけを行うよう配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜等の食材等を考え、水分をしっかりと摂れるようにしている。運動、時にはマッサージ等の支援も行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方には、色んな方法を考え、入ってもらえるように支援し、外での入浴を希望される方にも対応している	週2回の入浴ができるように、拒否がある入居者には、職員や時間を変えて促してみる対応をしている。希望する入居者のために近くの公衆入浴場に一緒に出かけて、個別支援をしている。入浴後、乾燥予防にワセリンを塗っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は皆で過ごしてもらい、活動を支援する事と自由に部屋で休まれる事を支援している。又、必要と思われる方は、短時間の昼寝を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬を個別に袋に入れ押印し、職員がチェックして間違いのないように提供している。処方内容は理解し、その都度対応している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んでもらったり、楽しみを阻害しない様にアルコール、煙草などの嗜好品を提供している。また、飲み過ぎや火災など起きないように見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのコンビニに行きたい等の要望には常に対応している。遠方の対応には待ってもらったり、家族にもお願いしている	事業所近くのコンビニ、菓子店では顔なじみになってきて、食材の買い出しなど一緒に外出の機会を作っている。野球観戦、観劇、外食なども行われている。家族の協力のもと個別で遠方にドライブに出かけたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入出金表を作りお金の管理を一緒にしながら、使用している。小銭を所持している方もあり、気を付けながら任せている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も手紙も要望によりいつでも使用できる。郵便が来たら、混乱しない様を考えながら対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を設置し、空気の入替えを忘れない等、自然環境を整えている。日めくりカレンダーや季節感のある物を飾っている	リビングの湿度をこまめに確認していて、乾燥対策として加湿器を置き、咳をする入居者が減ってきた効果がある。季節感があるひな飾りが置いてあり、入居者はそれぞれに椅子、ソファーに座り、テレビを見ながらおしゃべりしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダは開放感があり、ソファーはゆったり人を気にせず座れるようになっている。テレビを観たり、写真、書道の作品等飾り、自由に過ごせる様に配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活歴に応じた物を持ち込んで、好みの空間を作っている。その方のADLに応じて部屋やベッド等の配置を決めている	居室での車椅子使用は広く使えるスペースがあり、個別対応で加湿器が置いてある。入居者が以前使っていた家具を置いて、住み慣れた環境維持がされている。	一部の居室は、以前の産婦人科病室を使いシンプルな部屋である。個人の好みにも配慮しながら、撮影した写真等を貼るなど、認知症の進行予防にも繋がる工夫を期待したい。
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、照明等、転倒しないように配慮している。また、個人の名前や場所の札を下げたり、テープを貼ったりして分かりやすいように工夫している。		